

きべりはむし

第20巻 第2号

目 次

兵庫県産甲虫類研究史概説(2)	高橋 寿郎	31
ヒラタアオコガネの分布	高橋 寿郎	35
兵庫県下でのキンイロネクイハムシの分布	高橋 寿郎	41
猪名川周辺のツシマムツボシタマムシ	森 和夫	44
川西市見野にてトラカミキリ採集	森 和夫	46
神戸市の冬の海岸で採集した甲虫	沢田 和宏	48
神戸市の蜻蛉相(ヤンマ科)	青木 典司	49
キンボシハネカクシ神戸市内で採集	高橋 寿郎	54
クロオビツツハムシの新産地	高橋 寿郎	55

県関係文献紹介
県内学会誌・同好会誌
会員異動

兵庫県昆虫同好会

1992年11月

兵庫県産甲虫類研究史概説（２）^{*}

高橋 寿郎

欧米人による研究

江戸時代には開国の後はもちろん、鎖国の頃から外国人で日本の昆虫を採集した人があった。この中でシーボルトが日本へ来た翌年(1824)バタビアで出版された論文で2編の昆虫を記載したものと、ツェンペリーが帰国して後に多数の昆虫を記載したのを除けばすべて単に昆虫を採集して持ち帰り、あるいはそれを送ったものばかりで、ずっと日本に滞留して研究した者はなかった。

それが明治以後となると日本に在留する外国人の中に昆虫採集するものがたくさん出てくるばかりでなく、それを日本にいて研究する人達が現れ、日本の近代昆虫学はまづそれ等の研究者によって発足したと云ってよい。ツェンペリ、シーボルト以前にドイツ人ケムペル(Engel bert Kaempfer, 1651~1716)が元禄年間(1690~1693)に来朝しており1727年ロンドンで出版された“日本の歴史”には日本のセミとタマムシの図が出ている。日本産の昆虫で始めて学名の与えられたものはツェンペリーが採集して持ち帰った昆虫を彼自身が発表したものである。

ツェンペリー(カール、ピーター、ツェンペリ, Carl Peter Thunberg, 1743~1828)。1743年11月11日スウェーデン、ヨンキョピンクに生れてウプサラ大学を卒業、東印度会社所属の蘭船に員外外科医として乗船アムステルダムより南アフリカに出発、ケープタウンよりバタビアを経て1775年8月13日蘭船の主任医官として長崎に入港翌日出島に上陸、1776年3月4日和蘭商館フェイトの侍医として出島を出て江戸に向い4月27日江戸につき5月25日江戸を立ち6月29日出島に戻り12月3日長崎を出帆バタビアに向う。帰国後ウプサラ大学教授となり“日本植物誌”“日本動物誌”を出版している(1793年9月22日スウェーデンは“はるか遠くへ”と題するすべて1Krの5種切手の連刷ペンを発行し、同国の生んだ遠方への旅行者や探検者の功績をたたえたがこのトップにツェンペリーが入っており日本の風景と植物をバックに肖像が描かれている)。

この江戸に行く時と帰る時どちらも神戸に立ちよっている。即ち1776年4月6日に長崎より海路兵庫に上陸、8日に西宮を経て大阪に行っており、帰途は同年5月25日江戸を出発、6月15日大阪を出て兵庫を経て瀬戸内海を航行している。この江戸に行く間に採集したことは間違いないのだが産地を一つ記録していないので神戸でどんな虫を得ているのかわからない。

ツェンペリーが帰国後45年を経て発表された“日本動物誌”の出版された年(1823)シーボルトが日本へやって来た。

* 兵庫県甲虫相資料・267

シーボルト(Philipp Franz von Siebold)が日本へ来たのは1823年(文政6年癸未)で出島蘭館の医員としてである。そして文政12年己丑(1829)9月25日所謂シーボルト事件により日本を退去することを命ぜられ且その再渡来を禁じられ同年12月5日(1829年12月30日)出島を出帆する迄約6年間出島を中心として長崎で動植物採集に努め、安政5年(1858)日蘭通商条約が成立し安政6年7月6日再び長崎に到着、文久2年(1863)帰欧するまで滞りしその間江戸へも行った。この時彼は兵庫県にも来ている。即ち1826年2月15日水曜日(文政9年丙戌1月9日)オランダ商館長ストウルレルの江戸参府に随行出島を出発、海路3月8日室(兵庫県揖保郡室津)に上陸、それより陸路、龍野、姫路、兵庫(今の神戸)、西宮を経て13日大阪に入り江戸迄行き帰りは6月19日兵庫より乗船7月7日出島に帰着した。

この旅行中室津に上陸して龍野へ向い低い島地でシラサギを見、龍野でヒバリの歌を聞いたとある。後年有名な“日本動物誌”を発行したが兵庫県下からの昆虫の記録があった事は認められない(シーボルトの1826年の江戸参府紀行“東洋文庫・87, 平凡社, 1967, 1991”を見ると当時の兵庫とか生田の様子などが詳しく説明してあり室津付近の状況と共に非常に自然豊かな状況が偲ばれる。兵庫県下ではないが輒で“ハゼの上でコフキコガネを見つけた”と云う記録が出て来て自国産のものと比較をしている。昆虫に関しての興味もあったと同様採集もしたであろうことは推測出来る)。

明治迄にはその他にロシア人ゴオステコビッツ(Goschkevitch)及びアルブレヒト(Albrecht)が共に箱館にいて昆虫採集をした、前者は安政5年(1858)に来日、慶応3年(1867)迄いたといわれている。さらに萬延元年(1860)来日して1861年から1863年にかけて北海道から九州まで採集したロシア人マキシモヴィッチ(Karl Johann Maximowicz, 1827~1891)がいるが兵庫に来ているかどうか知らない。イギリス人ではアダムス(Arthur Adams, 1820~1878)、フォーチュン(Robert Fortune, 1813~1880)の2人がいるがどちらも兵庫に来ていないようである(フォーチュン、江戸と北京、広川書店、1969年刊参照)。

明治に入って特に神戸、兵庫に関係ある人達、採集、研究をした人達をみてみよう。

ただここで御断りしておかなくてはならないのは昆虫学という学問上からすれば Goschkevitch の採集品に基いていろいろ日本産昆虫の新種の記載をしたモオツリヨスキイ(Victor Ivanovitch de Motschalsky, 1810~1871)の研究は日本の昆虫の研究には欠くことの出来ない重要文献ではあるがモオツリヨスキイその人は日本に来たことはない。日本の昆虫学の研究にはこのように日本に来た人々の採集品に基いて研究した日本の昆虫学の研究者否日本の昆虫の解明に努められた研究者が多くいることを忘れてはならない(例えば1862年F. Morawitz は東シベリア産のものと北海道産の陸棲歩行虫を記載1863年に続報を出している。これ等の材料は函館領事館付の医官 Dr. M. Albrecht 及び Dr. P. Wulffius さらに C. Maximowicz の採集品である。

イギリス人昆虫学者ルイス (George Lewis, 1839~1926) は維新前後 (1864~1892) に長崎に在留し一旦帰国してから再び来朝し明治13年 (1880) から翌年 (1881) にわたって1年6ヶ月滞在して主として甲虫類を採集し (前回は長崎を中心に兵庫・大阪と日本の中央部迄を主体に後の来日では関東・本州北部・北海道南部を採集), 帰国後彼自身並びに多数の専門家によって多くの研究論文が発表され日本の甲虫類の基礎的研究をした人として絶対見逃せない。

兵庫でも採集しており新種の記載にタイプ標本として兵庫産のものが大変多い。一々調べたら大変な種数になりそうで兵庫の甲虫を専門的に調べた一番始めてのものがこのルイスの採集品によってである (G. Lewis の日本産甲虫類の採集品は Lewis 自身の研究発表以外に次のごときイギリス, ドイツ, フランスの学者によって研究発表がされている。Baly, Bates, Sharp, Waterhouse-Trans. ent. Soc. London, Bates-Ann. Mag. Nat. Hist., Blandford, Crotch, Gorham, Candeze, Kiesenwetter-Berl. Entomol. Reitt. Reitter-Verh. Zool. Bot. Ges. Wien., Roelofs-Ann. Soc. Ent. Belg., Saunders-Linn. Journ. Zool., Marseul-Ann. Soc. Ent. France)。

ブライヤー (Henry James Stovien Pryer, 1850~1888) はイギリス人で明治4年 (1871) 日本に来て死に致る迄約16年在留した。職業は Adamson Bell & Co. ということで海上保険会社の書記で主として鱗翅類の採集を日本全国でしている。有名なブランキストと共に鳥の研究もしたりしている。摂津で採集したことが知られている。彼の名は“日本蝶譜”として有名である。

この時代には東京外国語学校の教師として明治7年 (1874) 来日したイギリス人フェントン (Fenton) も専ら蝶の採集をしていたが兵庫には来ていないようである (記録によると Jean van Volxem が1873年に日本に来て1874年4月20日長崎, 5月3日 nach Hiogo, Osaka, Kyoto, 5月5日 Yokohama と採集を行い之等の結果は Putzeyfs and Roelofs により Ann. Soc. Ent. Belg. に発表されているとのことであるがこれ等の文献を見る事が出来なかつたので詳しくわからない)。

当時神戸に来て多少でも昆虫採集をしたと思われる人はわかっているだけでもさらに次の人達をあげることが出来る。即ちレンツ (Lenz, Tusicon - イギリス商人, 神戸在留1874~1880, Lenz T. の採集結果は Harold により2篇の論文によって発表されている。Abhandl. Nat. Bremen, 1875, 1876), レイン (Rein, Johan Justus, 1835~1918, ドイツ人, ドイツ大使館顧問, 日本在留1874~1875), ジョナス (Jonas, Frederich Maurice, 1851~1924, イギリス人煙草製造, 神戸在留, 1882~1904), リーチ (Leech, John Henry, 1862~1900, イギリス人, 鱗翅類採集家, 来日1886), ホランド (Holland, Wilbam Jacob, 1848~1942, アメリカ人, 皆既日食観測員, 来日, 1887), ザイツ (Seitz, Adalbert, 1860~1938, ドイツ人医師, 来日1891), フルストルファ (Fruhstorfer, Hans, 1866~1922, ドイツ人蝶類採集家, 来日1889年)。

レインはドイツのフランクフルトやマールブル大学の教授をしていたが東京ドイツ大使館の顧問とし

て明治8、9年の2ヶ年間日本に滞在し漆器や陶磁器、製紙等について調査する一方各地を旅行し昆虫の各目にわたり採集に努めておられる。僅か2年の間に235日の採集旅行前後6回にわたる日本の本州、四国、九州を丹念に歩いている。その内第1回、明治8年3月23日より7月28日迄の128日間、第4回、明治9年4月1日から5月28日に至57日間、第5回、明治9年6月3日より30日迄の28日間の採集旅行には夫々神戸で採集しておりその内の甲虫類をまとめられた Heyden の論文を見ても記録の中で兵庫産のものが1/3に及ぶ50種も記録しており勿論採集時期が神戸の時が一番よかったとしても当時の兵庫の昆虫が豊富であったことがわかる。

余談ではあるが六甲山を今日の姿にする基をつくったのは明治元年(1866)に来神したイギリスの貿易商、アーサ、ヘスケス、グルームであることは良く知られている。現在氏を記念して“前が辻”の高台に碑が立てられている。

スウェーデンの北氷洋探検船が(ヴェーガ号)ベーリング海を南下して明治12年(1879)9月2日横浜に入港。同号に乗っていた植物学者アトムキストが同号神戸滞在中(9月14~18日)に六甲山での初めての採集をしたという記録があり六甲山での初めての採集記録ではないかと思うが昆虫の方の記録は残念ながら知らない。

このように欧米人による日本の昆虫研究が日本昆虫学の研究の基となってきた。明治10年(1877)東京大学が発足するに及び生物学科として動物学が発見それにともなって昆虫の研究も出発した。

(付記)

1992年4月日本甲虫学会では大英博物館パメラ・ギルバート女史の好意によりルイスの肖像写真を入手し、ルイス来日130年を記念して彼の業績を顕彰し後世に伝えるべく、この写真からブロンズのレリーフを製作し兵庫県立 人と自然の博物館に寄贈した。またギルバート女史の好意で博物館所蔵のルイス自身が日本で採集した標本の一部を分けて貰え一般に披露出来ることになったとのこと。

さらに野村 全・藤野直也氏によってルイスの生涯についての記録の一部が発表になっている(昆虫学評論 Vol. 47, No.2:79-84, 1992)。

ヒラタアオコガネの分布

(兵 庫 県 甲 虫 相 資 料 ・ 2 6 3)

高 橋 寿 郎

ヒラタアオコガネ *Anomala octiescostata* Burmeister, 1844 は日本特産種でありその分布は本州の中部以南に分布している種といわれていたが最近千葉県下あたりにも分布を拡げているのではないかと報ぜられたりしている。ゴルフ場の少い頃には出現期の関係から近畿地方あたりではあまり記録が無かったように思われるが最近の様にゴルフ場が多く建設されてくると芝草の害虫としてこのコガネムシの発生が多くなってきたり時には大発生といった現象にしばしば出会ったりしだし次第に注目されるコガネムシの一種になって来たように思われる。そこでこのコガネムシの分布は現在どのような状況なのか身近にある文献によって眺めて見ることにした。勿論地方誌を克明に拾ったわけではないので大体の所しかわからないが傾向と云ったものはわかるのではとまとめてみた。

始めにこのコガネムシがどの様に吾々の眼の前に紹介されてきたかを眺めて見る。

ヒラタアオコガネの原記載は Burmeister (以下敬称略) により Handbuch der Entomologie, Band. IV, Berlin, p, 243, 1844にあることになっている。そこを見ると 15. A. 8-costata として簡単に2行程の記載であり日本が産地となっている。即ち *Anomala* 属で記載されている種である。

次いで Motshulsky, V. de が1860年 Etud. Ent. IX に "Insectes du Japan" なる論文を発表その P.14に *Phyllopertha octocostata* Burm. と学名だけを書いて何の解説もついていないが之が日本からの2番目の記録となる。Motschulsky の論文の材料は日本の北の方でのものが多く中央部から南の材料は少なかったように思われる。従って この記録の材料の産地がわかればなァと考える(単なる Burmeister の引用かも知れない)。

1875年に C. O. Waterhous は "On the Lamellicorn Coleoptera of Japan" を発表その P.108に "*Phyllopertha octocostata* Burm., A common species it appears with the first warm days of spring" とある。この論文は G. Lewis の主として南部日本で採集した標本に基いて記録しているのであって具体的な産地は書いてないが西日本一帯に普通に見られたのかもしれない。

1879年の G. Lewis の "Catalogue of Coleoptera from Japanese Archipelago (London)" には単に名前だけである。P.14. 978. *Phylloper octocostata* Burm.

1887年の Schoenfeldt, H. V. の “Catalog der Coleopteren von Japan” にも *Phyllopertha octocostata* として産地は Japan だけである。

同じく1887年に Heyden, L., が “Verzeichniss der von Herrn Otto Herz auf derchinesischen Halbinsel Korea gesahhelton Coleopter” と発表された論文中に朝鮮から *Anomala octocostata* Burm. を記録している。この記録がその後本種が朝鮮にも分布しているとして長い間扱われる基になった。

1903年の Edm. Reitter が “Bestimmungus-Tabelle der Melolonthidae” の中で *Anomala(Chrysoplethisa) octocostata* として Japan, Korea を分布地に記載らしきものが始めて発表になった。

1913年の G. J. Arrow の “Notes on the Lamellicorn Coleoptera of Japan and Descriptions of a few new Species” には *Anomala 8-costata* Burm. と名前だけを収録している。

1917年新島善直・楠 菊夫・富本 豊によって “コガネムシの被害及び駆除に関する報告(第1)” が発表になりこの中で(P.9)この種の名前が記録されている。この記録が日本人の手によるこの種の初めての紹介になると考えられる。

1918年の F. Ohaus の W. Junk Coleop. Cat. Pars. 66 には *Anomala octiescostata* と分布は Japan とのみになっている(P.75)。

1923年新島善直・木下榮次郎両博士による “こがねむしに関する研究報告(第2)” なる論文が発表になった。今迄の文献(原記載をも含んで)の中で本種の記載らしきものがほとんど見られなかったのは不思議であったがこの論文で記載らしきものが始めて発表されると共にカラーによる図もつけられている。産地は Korea, Japan, 高知, 福岡, 山口, 鹿児島, 朝鮮とあるが朝鮮の記録は Reitter の文献を採用されたのではないかと考えられる。学名は *Anomala octiescostatic* となっている。

1924年岡本半次郎博士は “The Insect Fauna of Quelpart Island” を発表になりその中で(P.175), *Anomala octocostata* を Heyden が朝鮮から Herz が採集したと記録している。朝鮮では大変珍しく1頭を得た併し日本では(北海道以外)発見できるとある。

尚 *A. sieversi* は朝鮮に普通で対馬にも産すと云う記録がある。

1930年代からいわゆる戦前での各種の図鑑にも本種が紹介された。その代表的なものを次に記録しておく。

1932. 新島善直. 日本昆虫図鑑, P.494, f. 961 (北隆館・東京)

1933. 神谷一男・安立綱光. 原色甲虫図鑑, pl. 53, f.6. (三省堂・東京)

カラー写真はあまり良い出来ではない。分布は “本州, 四国, 九州, 朝鮮に産す” とある。

1933. 加藤正世. 分類原色 日本昆虫図鑑第八巻. pl. 28, f. 5 (厚生閣・東京)

上翅上の隆条が赤くカラーで表現されているのは少々オーバーである。分布は前期図譜と同

じ.

1940. 平山修次郎. 原色甲虫図譜, pl. 25, f. 10, p. 63 (三省堂・東京)

分布は上記と同じである. 図示されたのは鹿児島県城山産. カラー写真が小さいので良くわからない図である.

次に戦前の代表的目録では次のものに夫々収録されている.

1935. 加藤正世. 主要金亀子科の分類(2). 昆虫界 3(15):159. *Anomala octiescostata*, 本州, 四国, 九州, 朝鮮.

1935. 三輪勇四郎・中條道夫. 日本産鞘翅目分類目録. pars. 5. 金亀子虫科. p. 38. *Anomala octiescostata*, 日本(本州, 四国, 九州), 済洲島, 朝鮮とある.

1941年沢田玄正博士は“A Revision of the Ruteline Beetles of the Genus *Phyllopertha* in the Japanese Empire”なる論文を発表, 本種を *Phyllopertha* 属の種として扱われると共に始めて♂交尾器の図も示された(全形図も入っている). 産地として従来の文献で示されたもの以外に鳥取, 呉, 福岡, 佐賀県唐津にも産することを示された.

戦後になって一番始めに本種が記載文をつけて紹介されたのが1949年の Medvedev, S. N. の Fauna U. S. S. R., Vol. X, No. 3 (No. 47)である. その P. 130-131, Fig. 20 に *Anomala (Chrysaplethisa) octiescostata* として図も入っている. 分布は日本, 朝鮮となっている.

1950年には新島善直, 日本昆虫図鑑, 改訂版, P. 1318, f. 3806 (北隆館・東京)に図示された. 勿論カラーでないからでもあるが記載がついている. 分布は日本(本州, 四国, 九州), 朝鮮となっている.

本書以後現在に致る迄の目録並びに図鑑類にどのように紹介されているかを見ると.

1960年野村 鎮は“日本産コガネムシ目録”(桐朋学報 10: 69)を発表になりそこで本種の分布を本州, 四国, 九州, 屋久島, 沖縄, 済洲島? 朝鮮(ex., Heyden)とされた(屋久島, 沖縄の分布は始めてであると考えられる). 1965年, 野村 鎮, 原色昆虫大図鑑, 第2巻(甲虫篇)(北隆館・東京). pl. 66, f. 7, P. 131において分布を本州(西部), 四国, 九州, 屋久島, 沖縄とされ済洲島, 朝鮮を省かれた. これ以後この2地方の分布は省かれるようになった(こちらに分布するのは *A. sieversi* Heyden である). それからの図鑑, 目録類としては次のようである.

1975. 林 長閑. 学研 中高生図鑑 昆虫Ⅱ 甲虫. p. 74, 364 (学研・東京). 分布. 本州(西部), 四国, 九州, 屋久島, 沖縄とあり1965年の大図鑑と同じである.

1984. 黒沢良彦・渡辺泰明. 野外ハンドブック. 12・甲虫. p. 74, 186 (山と溪谷社・東京).

カラーで図説されており学名は入っていない, 分布は本州~屋久島, 沖縄とある. ただ本書にはツツジの花を食害中の本種のカラーによる貴重な写真が収められている(場所は明示なし).

さらに千葉県のゴルフ場の芝生に発生したことも記録されている。

1985. 小林裕和, 原色日本甲虫図鑑(Ⅱ). pl. 72, f. 24, p.402 (保育社・大阪)

ここでの分布は本州, 四国, 九州, 屋久島となっており沖縄は抜けている。

1988. 石田正明・藤岡昌介, 日本産コガネムシ主科目録. LAMELLICORNIA 1st. ed. Supplement, P. 49.

一番新しい文献になるが分布は本州(中部以南), 四国, 九州, 平戸島, 壱岐, 甞島, 種子島, 屋久島, 沖縄と広い範囲での分布状況であると云うことがわかる。

それではこの虫の分布の東限と思われるあたりからその分布状況を眺めて見る。

本州の一番東の産地として千葉県があげられる。既に黒沢良彦・渡辺泰明による“野外ハンドブック, 12(1984)”で言及されているが千葉県での記録は次のように文献としてある。

1983. 木村欣二, ヒラタアオコガネ千葉県の記録. 甲虫ニュース(61):6. 千葉県印旛郡白井町。

1986. 山崎秀雄, 千葉県におけるヒラタアオコガネの再記録. 月刊むし(187):38-39. 市川市大町, 東菅野。

千葉県にはゴルフ場が多いのであるからこの地域に分布することは別に珍しい現象でもないと考えられる。

関東地方での本種の記録は他に無いようであり1981年神奈川県教育委員会の“神奈川県昆虫調査報告書”には全く出てこない。

静岡県では1989年比良嘉晃“静岡県産コガネムシ科仮目録”(静岡の甲虫, Vol. 7, No.1/2:30)に No.114 として記録がありデータその他何もついていない(筆者の前の報文〔1986〕では静岡県下での芝草害虫の研究論文〔1979〕などにこの種が出ていないと報告, 静岡県に本種がいるかどうかとしておいたが詳しくはわからないが分布していることは上記の文献でたしかのようである)。

愛知県からの記録は

1990. 松野更一・伴 憲隆・穂積俊文“愛知県のコガネムシ類”(愛知県の昆虫・上:356). 東三河. 豊川市財賀が唯一の記録とある。ところが福井県では割合と記録が多い。

1985. 佐々治寛之・斉藤昌弘, 福井県昆虫目録:21. 福井市, 勝山市, 大野市, 今庄市, 敦賀市, 名田庄村, 高浜町。

さて近畿地方であるが近畿地方で記録のあるのは大阪府と兵庫県位ではないかと思われる。京都府の記録と云うのが見られなかった。1985年の“京都府南部の甲虫”にも全く出てこない。最近高橋敬氏から送られてきた“奈良公園の甲虫”(1991)の中にも本種は全く出てこない。

大阪の場合, 中田隆昭によると(大阪府のコガネムシたち, 1990), 僅かに池田市東山の記録があるだけで(之等はノイバラ花上とかギシギシの葉食害を採集とあり)芝草のある所に産すると考えら

れていながらゴルフ場あたりを調査されていないようで兵庫県の例からしてもっと産する地点は多くあるように思うのだが。

兵庫県下の産地は前にまとめたが最近宝塚市切畑の記録も出ている。伊藤, (1992), その後県下のゴルフ場では産するようであり2ヶ所で大発生というのに出会っている。したがってゴルフ場を探せば恐らく何処にでもいるのかもしれない(調査時期の問題はある)(最近加古川市でも見つかった。瀬戸内に面した地域には広く分布するのかもしれない)。

今迄兵庫県下で採集されているゴルフ場は次の通りである。

宝塚市長尾山・宝塚高原ゴルフ場。西宮市武田尾・説売ゴルフ場。神戸市六甲山上・神戸ゴルフクラブ。三木市広野・広野ゴルフ場。

尚中田隆昭は六甲山系東おたふく山山頂付近に多産を報告している(東おたふく山であるから芦屋市の境地点である)。

岡山県では岡山県昆虫生息調査団“岡山県の昆虫, 1978”の中で県中央部, 北部に分布とある。

広島県からは中村慎吾“広島県産コガネムシ・クワガタムシ類”(比和科学博物館研究報告第10号: 9, 1966)の中で比和町吾妻山, 高野町森市の産地名が揚げられている。

山口県では三好和雄“山口県の昆虫”P.145(1988)の中で“6~8月平野部及び山間部にて普通”と記録されて(若干出現期が遅いようである)。

四国では三宅義一ほかによる“徳島県のこがねむし類”(昆虫科学 7:26, 1958)に海部郡牟岐町の記録が1例あるのみであったが1961年の矢野俊郎による“四国産既知甲虫目録 Ⅲ”(松山昆虫同好会時報16:14)では徳島県名頃, 弁岐町, 高知県高知, 真如寺山, 足摺岬, 西豊永, 愛媛県松山市西山の産地が記録されている。また坂口精一の“香川県産昆虫標本目録兼香川県産甲虫目録”(1989)には残念ながら本種は出てこない。

九州ではまづ高倉康男“福岡県の甲虫相”P.25(1989)(自刊)に英彦山地, 古処山, 田川市, 川崎町, 筑穂町, 平地~山地, 北部福智山, 足立山, 宮田町城山, 大牟田市とかなり普通に産する状況である。

宮崎県は清水 薫, 1969, “霧島山の昆虫”(霧島山総合調査報告書, P.263)に東大池・飯盛山の記録がある。

佐賀県東松浦郡鎮西町にある馬渡島から角田浩之ほか, “馬渡島の甲虫”(VITA Vol. 25:22, 1984)に7exs. 4, 5月採集の記録がある。

長崎県の壱岐からは浦川虎郷ほか, “壱岐の甲虫類”(壱岐の生物, P.36. 1977)に岳ノ辻, 天ヶ原, 谷江と記録が出ている。

熊本県からは大塚 勲“熊本県産コガネムシ類目録(3)”(北九州の昆虫, Vol. 9, No.1:11,



ヒラタアオコガネ分布概念図

出現期がかなり早いもので（4-5月）一般の眼につく機会が意外と少ないのではないかとと思われるが兵庫県の例を見てもわかるようにその出現期にゴルフ場を調べたら多数いるコガネムシなのだと思われる。そして芝草を害するコガネムシとして一部識者には衆知のコガネムシではないかと考えている。

最後に本種に似ている *Anomala sieversi* Heyden（朝鮮半島とか中国には普通にいる種）が対馬に産するといった記録が従来あったが一番新しい石田正明・藤岡昌介の“日本産コガネムシ主科目録”には出ていない。対馬に分布するのかどうか良くわからない。また本種の生態というか生活史というようなものはほとんど見られなかった。御存知の方があれば御教示頂きたい。ただ後閑暢夫博士によ

1962) に春から夏にかけて各地に多いとされ産地を熊本市, 阿蘇郡, 下益城郡, 人吉市, 球磨郡と記録されている。

鹿児島県は古く平山修次郎による城山産の記録があるが(1940)屋久島からは中根猛彦“屋久島に産する甲虫類について”(屋久島原生自然環境保全地域調査報告書, P. 608, 1984)の中に記録がある。

沖縄県からは東 清二・金城政勝“沖縄県産昆虫目録, 214, 1987”に本種の分布として“Okinawa Is., Yakushima, Tanegashima, Kyusyu-Honshu”となっている。

以上手許にある文献でこの種の分布を眺めて見たが福井県の記録が多いのは別として近畿から東では意外と記録があまり見られず東限は千葉県とは考えられるがその中間地帯でも記録があまり見られない。兵庫県から西へは割合分布しているようで特に山口県では多いとある。

四国も特に多いと云うような記録は見られなかった。

九州は全域に分布しているようで特に福岡県, 熊本県では多くいる印象を受けた。ただこの虫の

りその生活史、卵、幼虫の形態について述べられた貴重な報文がある(1980)。

参考文献

文中論文表題のみ示したものの発表誌名を記しておく。

G. J. Arrow, 1913. Ann. Mag. Nat. Hist. 8, xii, p.396.

後閑暢夫, 1980. ヒラタアオコガネ *Anomala octiescostata* Burmeister について。

日本応用動物昆虫学会誌 24(2):112-112.

新島善直・木下栄次郎, 1923. 北海道帝国大学農学部演習林研究報告 Vol. 2. No.2

新島善直・楠 菊夫・富本 豊, 1917. 東北大農科大演習林研究報告第 5号.

岡本半次郎, 1924. Bull. Agr. Exp. St. Chosen Vol. 1, No.2.

Reitter, Edm. 1903. Verh. Naturforsch Ver. Brünn, 41, PP.28-158.

Sawada, H., 1941. Nippon no Kochu, Vol. 4, No.1:42-58, pl. II-V.

Schoenfeldt, H. v., 1887. Jahrb. d. nass. Ver. Naturhunde 40:31-204.

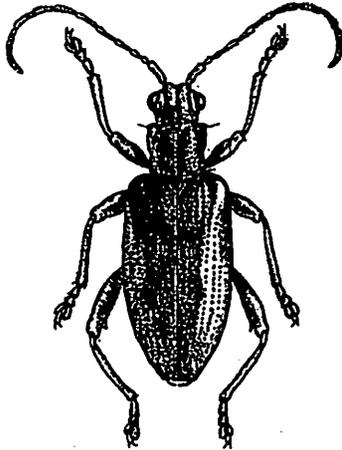
C. O. Waterhouse, 1875. Trans. ent. Soc. London, Part. 1:71-116, pl. III.

兵庫県下でのキンイロネクイハムシの分布

(兵 庫 県 甲 虫 相 資 料 ・ 2 6 4)

高 橋 寿 郎

キンイロネクイハムシ *Donacia japonica* Chūjō et Goecke は京都の深泥池 (Midoro-ga-ike) で岸井 尚, 中根猛彦両博士によって採集された標本に基づいて中條道夫博士と Goecke 氏との共著によって記載をされた美しいネクイハムシである (1956)。原記載の終りの所で素木得一博士が京都で採集された標本に基づいてヨーロッパ, シベリアに分布して日本からは初めての記録種であるとされた *Donacia aquatica* Linné は本種のことであるとされている (1934)。さらに後藤光男氏が図説された *Donacia* sp. もこの種であると記しておられる (1955)。



Donacia (Donacia) japona
Chûjû et Goecke,

(AKITU Vol.5, No.3.P.61,1956より)

本種の日本における分布状況は“アトラス・日本のネクイハムシ” (1985) によると“本州の北端部から北九州まで知られているが四国からは未知で、西南日本からはほとんど知られない。”とある。かなり広く分布しているようだが実際にはそれ程多く見られるハムシではないようだ(産地では個体数が多いといった傾向があり、産地が限定されている種のようなのである)。日本以外は旧満州東部、朝鮮に分布している。最近の“宮城県のハムシ” (1992) でも1例しか報告されていない。

さて兵庫県下では、このハムシはどのような状況なのだろうか。宝塚市大原野に多産することは前記“アトラス・日本のネクイハムシ”に詳しく紹介されている。この場所と同じであると思われるとして森 和夫氏も多くいることを報ぜられた(1991)。さらに、この記録に用いられた標本を採集された翌年にも同じ場所が多くいることを再確認されると同時にその内の2♂2♀をわざわざ御恵送下さった(標本は現在筆者保管)。この地は兵庫県下で最も本種を多く産する地のようなのである。

それ以外には、三木市大村から 1ex. 採集出来たと永幡喜之氏から連絡を頂いた。八木 剛氏は加東郡社町から記録された。筆者は、かつて氷ノ山山麓大久保にて採集した以外、県下で全く採集出来ていなかった。

1992年5月、美囊郡吉川町で調査の機会に恵まれた。このあたりは割と池があるので、ひよっとすると注意して見たが池の状況はかなり汚れており、ゴミ捨場に近い状況であった。部分的にはジュンサイがあり、それにはそこそこのネクイハムシ *Donacia lenzi* Schonfeldt を見ることが出来たが、その内の1つの池畔で同行の蜂谷幸雄氏がキンイロネクイハムシの1♀を網にされた。たった1頭しかいないとはおかしいと、かなり詳しく他の池をも含めて調べて見たのであるが、ネクイハムシのみでキンイロネクイハムシはとうとうこの1♀のみであった(標本は筆者保管)。

おそらく播州平野にもこの種の分布地はあることだと思われる。

一応現在までの県下の記録を全部次に記しておくことにする。

尚この種の形態、生態、生活史それ等は塚本桂一氏等の報文(1960)並びに“アトラス・日本のネクイハムシ”にも詳しく紹介されており、産地は限定されてはいるが、そこではわりといる種のようなのである。

〈兵庫県下のキンイロネクイハムシの記録地〉

宝塚市大原野(北方の池) alt. 200m, 多数〔野尻湖昆虫グループ, 1981, 1985. 細井, 1987〕. 下佐曾利〔10♂, 8♀, 6-V-1990, 12♂, 8♀, 12-V-1990, 7♂, 5♀, 20-V-1990, 森, 1991〕(2♂, 2♀, 27-V-1991, K. Mori leg.). 三木市大村〔lex., 2-V-1987, Y. Nagahata leg.〕. 美囊郡吉川町(1♀, 21-V-1992, Y. Hachitani leg.). 加東郡杜町畑〔八木, 1991. データ無し〕. 養父郡氷ノ山山麓大久保 alt. 700m, (8♂, 4♀, 24-VIII-1958. T. Takahashi leg.).

尚余談ではあるが, この吉川地域はネクイハムシは非常に多く見ることが出来るが, それに混じって今回もイネネクイハムシ *Donacia provosti* Fairmaire 1♂ (21-V-1992) を採集出来ているので併せて報告しておく(この件, 本誌 Vol.16, No.2, 1988も参照下さい).

参 考 文 献

本文作製にあたり参考としたものゝみ.

M. Chūjō, 1934. Studies on the Chrysomelidae in the Japanese Empire(VII).

Trans. Nat. Hist. Formosa 24(135):530-531.

M. Chūjō & H. Goecke, 1956. Contributio to the Fauna of Chrysomelidae (Coleoptera) in Japan(II). Akitu 5(3):60-62, fig.

M. Chūjō & S. Kimoto, 1961. Systematic catalog of Japanese Chrysomelidae.

Pac. Ins. 3(1):121.

後藤光男, 1955. 原色 日本昆虫図鑑(上). p.125, pl.46, F.1 (保育社)

細井孝昭, 1986. 大成功! ネクイハムシの観察会. うんころがし(野尻湖昆虫グループ連絡誌) No. 23:6.

保谷忠良・金澤 理・佐々木元幸, 1992. 宮城県のハムシ(宮城県仙台第二高等学校) p.24-25.

S. Kimoto, 1964. The Chrysomelidae of Japan and the Ryuhu Islands I.

Jour. Fac. Agr. Kyushu Univ. 13(1):115

木元新作, 1984. 原色日本甲虫図鑑(IV). pl. 29, f.13, p.151.

森 和夫, 1991. 宝塚市西谷地区の昆虫数種について. きべりはむし 19(1):21-23.

野尻湖昆虫グループ, 1985. アトラス・日本のネクイハムシ(大阪市立自然史博物館).

高橋寿郎, 1974. 中国山脈東端の昆虫相.

東中国山地自然環境調査報告：222.

塚本珪一・岸井 尚・小山 貢，1960. キンイロネクイハムシに関する2・3の知見. あきつ 9(1): 17-21.

八木 剛，1991. ネクイハムシ類の産卵習性及び卵形態について. Donacist (4):9-14.

猪名川町周辺のツシمامツボシタママムシ

森 和 夫

ツシمامツボシタママムシ *Chrysobothris samurai* OBENBERGER は、初夏の頃にクリやナラ、カシ類の枯枝や伐採木等集まるが、産地が限定され、個体数も多くないようである。今回、筆者は、下記のように猪名川町周辺で、本種を採集することができたので報告する。

〈採集データ〉

①大阪府能勢町^{さいが}才の^{かみ}神峠 (alt. 410m, 三草山の西中腹で猪名川町との境から400m程の所)

19-VI-1988, 2 ♀

②兵庫県猪名川町猪淵の南西 (alt. 190m, 宝塚市切畑との境界付近)

8-VI-1991, 1 ♀

③兵庫県猪名川町^{すどうしんてん}杉生新田 (alt. 450m)

9-VI-1991, 10 ♂ 5 ♀

15-VI-1991, 2 ♂ 4 ♀

ツシمامツボシタママムシは、以前は、対島特産種と考えられていたそうであるが、最近では九州や本州に産することが知られている。当地の近くでは、岡山県の北部山地帯に産することが知られ(岡山県の昆虫：1978年，倉敷昆虫館発行)，また、奈良市春日山や大阪府豊能町で採集された話を聞いたことがあった。従って、兵庫県内にも当然産するものと考えられるが、筆者は情報量が少なく、確かめられなかった。また、猪名川町から能勢地方にかけての昆虫相は、仲田元亮氏の「能勢の昆虫」(1982年)によくまとめられているが、当書にもツシمامツボシタママムシは、報告されていない。

なお、本種には、6紋型と4紋型が知られており、産地によってその割合が異なるとのことである

ため、今回採集したものを調べてみた。この結果は、次表の通り、ここで発生率は、ほぼ同等であった。

	採集地	6 紋型	4 紋型
①	才の神峠産	1 ♀	1 ♀
②	猪淵付近産	1 ♀	
③	杉生新田産 (9 - VI - 1991)	4 ♂, 3 ♀	6 ♂, 2 ♀
④	〃 (15 - VI - 1991)	1 ♂, 3 ♀	1 ♂, 1 ♀
	合 計	5 ♂, 8 ♀	7 ♂, 4 ♀
		13exs	11exs

今回の採集日は、いずれも晴天で気温の高い日であった。道端に積まれている^{たぐ}菜に止っていたが、近付くのを察知され逃げられた個体も多かった。従って、上記の比率も多少は誤差があるものと考えられる。

また、当地の周辺では、同様な環境で、ムツボシタマムシ *Chrysobothris succedanea* E. SAUNDERS も得ることができるが、著者のデータでは、両種を同時に採集することができた場所は、杉生新田の1ヵ所だけであり、それも、ツシマムツボシタマムシ21頭に対しムツボシタマムシは1頭だけであった。

両種の間に住み分けのようなものがあるかもしれないと思ったが、今のところ生息環境等に差を見出せなかった。

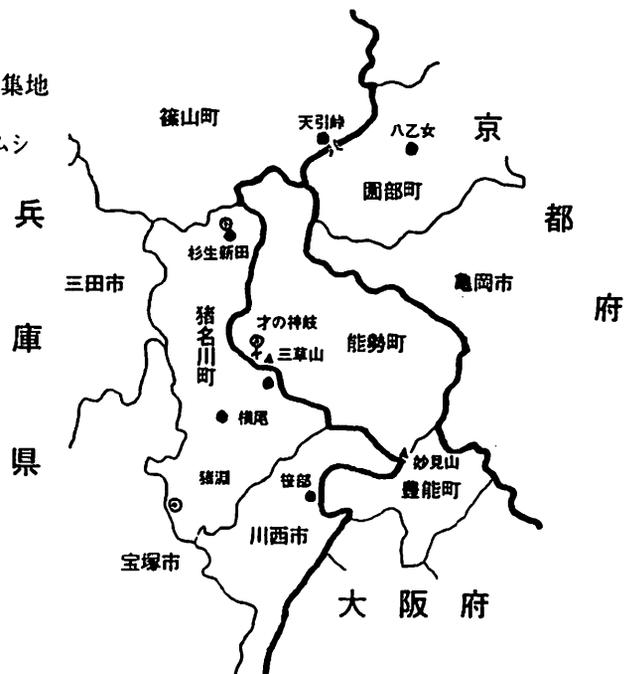
猪名川町周辺における

2種のムツボシタマムシ採集地

(注)

◎; ツシマムツボシタマムシ

●; ムツボシタマムシ



参考までに、ムツボシタマムシのデータも報告しておきたい（筆者採集分のみ）。

〈ムツボシタマムシ採集データ〉

- ①兵庫県川西市笹部；21-VI-1970, 1♀. 26-VI-1983, 2♂1♀. 1-VI-1983, 1♀. 12-VII-1985, 1♀.
- ②兵庫県猪名川町横尾；12-VI-1983, 2♂1♀.
- ③兵庫県猪名川町三草山南腹；15-VI-1975, 1♀. 17-VI-1990, 1♂. 15-VI-1991, 1♀.
- ④兵庫県猪名川町杉生新田；15-VI-1991, 1♀.
- ⑤兵庫県篠山町天引峠；18-VI-1988, 1♀.
- ⑥京都府園部町八乙女^{はつとめ}；3-VI-1988, 1♂. 26-VI-1988, 1♀. 13-VI-1991, 1♀

（付記）ツシマムツボシタマムシは兵庫県下で次の様な記録地があるので付記しておく。

宍粟郡波賀町戸倉〔大平, 1982〕. 美方郡温泉町蒲生峠〔谷角, 黒井, 1986〕.

（高橋）

川西市見野にてトラフカミキリ採集

森 和 夫

見野地区は、川西市の北部にあって、能勢電鉄山下駅から南西側に拡がり、南北及び東西が各々7～800m程の小さな盆地である。

この地区は、古くから農業が中心であったと考えられ、上ノ田、不毛ノ谷、大根畑など農地に関する^{あご}字（地名）が多い。自然林らしいものは、市杵島神社の境内にわずかに残っている程度であったが、今では宅地化が進んでいて、農地は減少し、河川も汚れてきている。筆者自身も1982年に当地に居住するようになったが、地区内には興味を引くような所は無かった。

ところが、当時、小学1年生であった、近所の中村尚平君と豊田啓啓君の2人が、名前を教えてほしいと言って持って来た虫が、トラフカミキリ *Xylotrechus chinensis* CHEVROLAT であった。さっそく、採集場所へ案内してもらったところが、山下駅に近い幼稚園であった。この園内の桑の老木に発生していた。捜してみると樹幹や枝にじっと止っていて、筆者自身も4頭を採集することができた。この桑の木は、園児達に実を取らせたいと考え、園長先生が植えられたものだそうであり、幹の各所

が朽ちていて、よく見るとカミキリが脱出した穴が各所に空いていた。また、園内には、もう1本の若い桑の木があり、この木も捜してみた。こちらからはトラフカミキリは見付けられなかったが、葉裏からハラグロオオテントウ（3頭）を採集することができた。

その後は、いつでも行けると思い、行きそびれていたところ、この老木は、1987年初の頃に切られ、根こそぎ処分されてしまった。朽ちて来て、園児が怪我をする心配が出てきたためとのことであった。

残念に思い地区内を調べたところ、桑の木は何本かあったが、トラフカミキリの方は見付けられずにいた。

調べた中で、最も大きいものは、山下駅の横の木であった。電車の高架よりも、高くそびえ、10mを越す大木であった。しかし、この木も1991年6月下旬に根元から切り倒されてしまった。切られた木は、何に使われる訳でもなく、空地に積み上げられていたため、もしやと思い見に行った。伐採され積み上げられた幹等には何も見られなかったが、切り株を見ると、トラフカミキリが止っていた。この個体は、産卵中であり、切り株の反対側でもう1頭と、飛んでいた1頭を得ることができた。

後記にまとめた採集データのように、次の休日にも見に行き、採集することができた。これらは、飛翔中の1頭を除き、いずれも切り株に止っていたものである。切り株の横には、伐採された材が山のように積まれているにもかかわらず、それらには全く見向きもしないようであった。

《採集データ》（筆者採集分のみ）

①川西市見野字東橋詰（幼稚園内）

16-VI-1985, 4exs.

②川西市見野字北山形（山下駅横）

14-VII-1991, 3exs. 19-VII-1991, 1exs. 20-VII-1991, 2exs.

この地区に引越して来た頃は、買物にも不自由するような所であったが、その後、電車は増発され、道や下水等も整備されて住み易くなってきた。また、最近では、近郊農地の課税対策とかで、駅周辺の至る所の空地や田畑が、住宅や駐車場に変わってきている。それと共に、地区内の木も次々と切り倒されている。残存する数少ない木で、生き長らえてくれればと願っているが、当地では、これまで本種の報告が無かったようであるため、記録に留めておきたい。

神戸市の冬の海浜で採集した甲虫

沢田和宏

筆者はかつて、本誌第14巻第1号(1986)で西宮市の海浜で採集した6種の甲虫を報告したことがあるが、今回は神戸市の海浜で採集した甲虫類を報告してみたい。

採集したのは神戸市須磨区須磨浦海岸(1992年2月25日)同市垂水区海岸通り(1992年2月26日)の2ヶ所であるが、特に変わった甲虫が採集出来たという訳でわない。しかし、本誌の最近のバックナンバーを見ても神戸市の海浜の甲虫については報告されていないようなので、兵庫県産甲虫の分布資料の一つとして報告する次第である。

報告に先立ち、一部の種の同定をお願いした和泉敦夫氏に厚くお礼申し上げる。

1. *Aepheidius adelioides* MacLeay トゲアトキリゴミムシ 須磨浦海岸 2頭。
2. *Cercyon aptus* Sharp コケシガムシ 須磨浦海岸 2頭。
3. *Hypocaccus sinae* (Marseul) ニセハマベエンマムシ 須磨浦海岸 1頭。
4. *Hypocaccus varians* (Schmidt) ハマベエンマムシ 須磨浦海岸 3頭。垂水区海岸通り 1頭。
5. *Aphodius nigrotessellatus* Motschulsky セマグラマグソコガネ 須磨浦海岸 4頭。
6. *Aphodius rectus* (Motschulsky) マグソコガネ 垂水区海岸通り 3頭。
7. *Paracardiophorus sequens* (Candeze) アカアシハナコメツキ 須磨浦海岸 5頭。
8. *Dermestes coarctatus* Harold カドムネカツオブシムシ 垂水区海岸通り 1頭。
9. *Idisia ornata* Pascoe ハマヒョウタンゴミムシダマシ 須磨浦海岸 3頭。
10. *Gonocephalum coriaceum* Motschulsky コスナゴミムシダマシ 垂水区海岸通り 8頭。
11. *Gonocephalum coenosum* Kaszab ヤマトスナゴミムシダマシ 須磨浦海岸 5頭。垂水区海岸通り 1頭。
12. *Gonocephalum pubens* Marseul オオスナゴミムシダマシ 須磨浦海岸 3頭。
13. *Caedius marinus* Marseul マルチビゴミムシダマシ 須磨浦海岸 3頭。
14. *Chrysolina aurichalcea* (Mannerheim) ヨモギハムシ 須磨浦海岸 1頭(上翅のみ)
15. *Scepticus uniformis* Kōno トビイロヒョウタンゾウムシ 須磨浦海岸 3頭。

以上、9科15種の甲虫のうち、活動中と思われる食糞コガネムシ2種以外は砂の中や石の下から採集した。また、上記のうちハマベエンマムシ、コ、ヤマト、オオの3種のスナゴミムシダマシとマル

チビゴミムシダマシは個体数が多く見られた。

今回、神戸市の2ヶ所の海浜で採集をして感じたことは、残念ながら海浜が大変に汚れているということである。都会に近い海浜のため止むを得ない事なのかもしれないが、一見、砂の表面がきれいに見える場所でも、砂を掘ってみると、中から発泡スチロールやガラスの破片などが現われてくるが多かった。

須磨浦海岸は、ある程度の広さがあるが、本来ならば砂地はもっと後方まで伸びていて植物も多かったはずである。現在は住宅や水産関係の施設が浜の中まで進出し、甲虫類が棲息出来る場所は非常に限られているように思われた。

垂水区海岸通りの方はJR垂水駅のすぐ近くにあり、面積も狭くゴミと犬の糞だらけで、とても海浜と呼べるような所ではなかった。

甲虫達は環境の悪化が進む中で、ようやく自分達の居場所を探して細々と棲息しているようである。今回は冬期であったので得られた種類も上記の通り少ないが、春から秋にかけての活動期には更に多くの甲虫類が見られるものと思う。

神戸市の蜻蛉相（ヤンマ科）

青木典司

神戸市の蜻蛉目については、北区道場付近のトンボ相40種について、故岩崎正道氏が本誌第5巻1/2号で報告されており、さらに総括的に故松本健嗣氏が本誌第10巻第2号で「神戸市周辺の蜻蛉目」として81種を報告している。筆者は1988年から継続して神戸市のトンボ相の解明に力を注いでおり、一応の成果を得た。その結果、神戸市で現在までに記録されたトンボ類（蜻蛉目）の種類数は、88種・亜種にのほる（ただし目撃のみの記録1種を含む）ことが分かった。概略の報告（青木1991a）及びサナエトンボ科の詳細な報告（青木1991b）は行ったが、他の科についてはデータの公表はしていない。開発が加速度的に進んでいる神戸市の状況を考えると、現時点で採集データを記録することは重要であると考え、今回はまずヤンマ科について記録しておきたい。過去に発表されたのと同じ場所での記録もあるが、最近の記録として発表することにした。

記録中、「幼」は幼虫を表わし、「殻」は羽化殻を表わす。

1. サラサヤンマ *Oligoaeschna pryeri* (MARTIN)

北区山田町上谷上：1♂, 1. VI. 1991. 1♂, 4. VI. 1991. 1♀, 1. VI. 1992.

北区淡河町野瀬：1♂, 1. VI. 1991. 1♂, 12. VI. 1992.

北区道場町生野：1♀, 25. VI. 1992.

本種は、帝釈・丹生山系に点在する湿原、及び道場の湿原に見られる。数は少ない。

2. ミルンヤンマ *Planaeschna milnei* (SELYS)

北区山田町下谷上（再度山）：1♀, 13. VIII. 1971.

北区山田町下谷上（谷山川）：4♂1♀, 12. VIII. 1990.

北区山田町原野（柏尾谷川）：1♀幼, 16. II. 1991.

北区八多町（屏風川源流）：1♂幼, 6. III. 1991.

北区道場町生野：1幼, 18. VI. 1991.

灘区六甲山町中一里山（穂高湖）：1♀幼, 12. III. 1991.

灘区六甲山町西山谷（西山谷川）：1♀幼, 25. II. 1991.

灘区六甲山町篠原（大日川源流）：1♂幼, 6. XII. 1991.

東灘区本山町森：1♂1♀, 28. VIII. 1990. 1♂幼, 22. VI. 1992.

本種の棲息地は河川源流なので、自然公園六甲山を抱える神戸市には棲息環境が多数残っている。

今後も六甲山が残る限り、棲息し続けていくであろう。

3. コシボソヤンマ *Boyeria maclachlani* (SELYS)

北区山田町下谷上（谷上駅前）：1♂, 25. VIII. 1988.

北区山田町下谷上（生田川）：1♂, 19. VIII. 1989.

北区山田町下谷上（天王川源流）：1♂1♀, 25. VIII. 1989. 1♂, 24. VII. 1990. 2♂, 1. VIII. 1990. 1♀, 13. VIII. 1990. 1♂, 23. VIII. 1991.

北区淡河町野瀬（屏風川）：1♂幼, 4. IV. 1991.

北区道場町生野（船坂川）：3♂, 2. VIII. 1990.

中央区葺合町市が原（生田川）：1♂, 19. VIII. 1989.

灘区六甲山町五介山（五助ダム）：1♀幼, 13. II. 1991.

河川中流の環境は、大都市においては著しく改変される。本種も元来は河川中流から上流にかけて棲息する種であるが、神戸市での棲息地はかなり上流域に偏っている。

4. アオヤンマ *Aeschnophlebia longistigma* SELYS

北区淡河町野瀬（屏風川）：1♂, 26. V. 1991. 1♂, 1. VI. 1991. 1♂, 15. VI. 1991.

西区岩岡町岩岡（寛政池）：1♂2♀, 15. VI. 1992.

西区栢谷町寺谷：3♂，21. VI. 1991. 2♀・2♀殻，16. V. 1992. 1♀，7. VII. 1992.
西区栢谷町松本（湯出池）：1♂幼，6. II. 1992. 1♀幼，9. III. 1992. 1♂1♀幼，
15. IV. 1992. 1♀殻，26. V. 1992. 1♂1♀，13. VI. 1992.
垂水区名谷町字猿倉（猿倉池）：2♂，27. VII. 1990. 1♂，28. VI. 1990. 1♂，26. VI. 1991.
垂水区塩屋台（塩屋大池）：3♂，26. VI. 1991.
垂水区美山台（菅ノ池）1♂，26. VI. 1991.

ヨシヤガマの繁茂する古い池沼に棲息する。神戸市では休耕のため放置されたため池や、市街地に取り残されて管理が放棄されたため池に生き残っている。このようなため池はいずれは消える運命にあるから、本種の将来は暗い。

5. ネアカヨシヤンマ *Aeschnophlebia anisoptera* SELYS

西区栢谷町寺谷：1♀，11. VII. 1991.

本種は稀種に属するヤンマである。しかし、数は少ないものの、筆者は明石公園や淡路島、小野市などで採集しているので、結構まだ生き残っている。黄昏時に伊川谷町布施畑の谷で飛翔するのを目撃している。

6. カトリヤンマ *Gynacantha japonica* BARTENEF

北区淡河町勝雄：1♀，11. IX. 1990.

北区山田町小河：1♂1♀幼，

北区山田町西下：1♂2♀幼，14. VI. 1991. 1♀，16. VIII. 1991. 1♀，20. VIII. 1991. 1♂，
28. VIII. 1991.

北区筑紫が丘（開発以前）：1♀，2. VII. 1971. 12. IX. 1971.

西区伊川谷町前開：28. VIII. 1990.

西区栢谷町松本：1♂，5. IX. 1992.

西区栢谷町寺谷：1♂，20. VII. 1991. 1♂，27. IX. 1991.

西区伊川谷町布施畑：1♀，17. VIII. 1991.

垂水区名谷町字猿倉（猿倉池）：1♂，6. VII. 1991.

須磨区多井畑奥須磨公園：1♀，26. VII. 1990.

田圃の際の水溜りなどで繁殖する。薬剤散布で数は減ったものの、夏の夕方、田圃の上を多数が敏捷に飛翔する姿を、まだまだ観察できる。

7. ヤブヤンマ *Polycantbagyna melanictera* (SELYS)

北区山田町下谷上（二十渉）：1♂1♀殻・1♀幼，7. VII. 1990.

北区山田町下谷上（天王川源流）：1♂1♀，24. VII. 1990. 1♀幼，14. VI. 1991.

北区山田町西下：1♂1♀，16. Ⅷ. 1991.

北区山田町小河：1♂幼，1. Ⅲ. 1992.

西区押部谷町木津：1♀，26. Ⅶ. 1991.

西区栢谷町寺谷：1♀幼，13. Ⅵ. 1992.

西区伊川谷町布施畑：2♂2♀，17. Ⅷ. 1991.

須磨区多井畑奥須磨公園：1♂，14. Ⅷ. 1990.

東灘区本山町森：1♂幼，22. Ⅵ. 1992.

神戸市各地の谷筋で，夏の夕方高空を飛翔する姿が観察できる。

8. ルリボシヤンマ *Aeshna juncea* (LINNAEUS)

東灘区本山町森：1♂，21. Ⅸ. 1990. 1♂1♀幼，19. Ⅲ. 1991.

北区山田町下谷上：1♀，26. Ⅸ. 1992.

元来，東北日本に棲息するヤンマであり，兵庫県でもハチ北や氷ノ山などの高山にしか棲息していない。六甲山系の東方芦屋市との市境，黒越谷に棲息している。

9. オオルリボシヤンマ *Aeshna nigroflava* MARTIN

北区山田町下谷上（生田川上流，八州嶺堰堤）：1♂，19. Ⅷ. 1989.

同（森林植物園）：1♂，25. Ⅷ. 1989.

同（洞川湖）：1♂，24. Ⅸ. 1990.

北区山田町小河：1♂，30. Ⅸ. 1989. 1幼，20. Ⅻ. 1991.

北区山田町西下：1♂1♀，16. Ⅷ. 1991.

西区伊川谷町布施畑：1♂，1. Ⅸ. 1991.

中央区神戸港地方（再度ドライブウェイ）：1♂1♀，23. Ⅷ. 1991.

中央区葺合町（字川）：1♂，20. Ⅷ. 1971.

灘区摩耶山町：1♀，31. Ⅷ. 1990.

灘区六甲山町中一里山（穂高湖）：1♂，31. Ⅷ. 1990.

同（瀬池）：1♂，22. Ⅷ. 1991.

東灘区本山町森（黒越谷）：3♂，28. Ⅷ. 1990. 1♀・2♂2♀幼，30. Ⅷ. 1990. 1♂1♀，4. Ⅸ. 1990. 1♂，13. Ⅹ. 1990. 1♀幼，19. Ⅱ. 1991. 1♂1♀幼，22. Ⅵ. 1992.

本種は六甲山系に広く棲息している。真夏，水生植物が繁茂する池沼にはたいがい飛んでいる。

10. マルタンヤンマ *Anaciaeschna martini* (SELYS)

北区山田町西下：1♂，16. Ⅷ. 1991. 1♂，20. Ⅷ. 1991.

西区栢谷町寺谷：2♂1♀幼，16. Ⅴ. 1992. 1♂2♀幼，26. Ⅴ. 1992.

夏の夕刻，ヤブヤンマに混じって高空を一直線に飛ぶ姿が観察できる。数が少なく，また幼虫は見つかりにくく棲息状況を把握することが難しい。

11. クロスジギンヤンマ *Anax nigrofasciatus nigrofasciatus* OGUMA

北区淡河町野瀬：1♂殻，23. IV. 1991.

北区山田町下谷上（天王川源流）：1♀，23. V. 1990.

北区山田町西下：1♂，14. VI. 1991.

北区山田町小河：1♂2♀幼，26. II. 1991. 2♀殻，21. IV. 1991. 1♂，14. V. 1991. 1♀幼，27. IV. 1992.

西区押部谷町高和（清水谷池）：1♂，26. V. 1990.

西区玉津町水谷（五番池）：1♂，13. VI. 1992.

須磨区多井畑奥須磨公園：1♂，22. V. 1990. 1♂，22. VI. 1990.

灘区摩耶山町：1♀，5. VII. 1975. 3♀幼，20. III. 1991. 1♀，10. VII. 1991.

灘区六甲山町一里山（穂高湖）：1♂幼，12. III. 1991.

春早くから出現するヤンマで，平地では7月上旬には見られなくなるが，六甲山系では9月まで観察できる。

12. ギンヤンマ *Anax parthenope julius* BRAUER

北区山田町下谷上（谷上駅前）：1♂，25. VIII. 1988.

北区山田町小部二軒茶屋：1♂，15. VIII. 1990.

北区山田町小河：1♂幼，31. I. 1991. 1♀幼，27. II. 1991. 1♂1♀幼，27. IV. 1992.

北区山田町西下：1♂1♀，20. VII. 1991.

北区淡河町野瀬：1♂殻，23. IV. 1991. 1♂，19. VII. 1991.

北区淡河町野瀬（屏風川）：1♂，11. VI. 1991.

北区淡河町勝雄（淡河川）：1♂，16. VIII. 1991.

西区押部谷町高和（清水谷池）：1♀，29. VIII. 1989. 1♂，16. VIII. 1990.

西区玉津町水谷（芳ヶ谷池）：1♂，21. IX. 1991. 1♂，15. X. 1991.

西区玉津町水谷（五番池）：1♂幼，9. III. 1992.

西区栢谷町寺谷：1♂，20. VII. 1991. 1♂，21. VII. 1991. 1♀，16. VIII. 1991.

西区栢谷町谷口（大池）：1♂，22. IX. 1991. 1♀幼，5. III. 1992.

西区栢谷町松本（湯出池）：1♂，28. IX. 1991. 1♂，26. V. 1992.

西区伊川谷町布施畑：1♀幼，17. IX. 1991. 1♂1♀，17. VIII. 1991.

垂水区美山台（菅ノ池）：1♂，21. VI. 1990.

垂水区塩屋台（塩屋大池）：1♂，26. VI. 1991.

須磨区多井畑奥須磨公園（小松池）：1♂，1. VII. 1990. 1♂1♀，15. VIII. 1991.

中央区葺合町宇川：1♂，26. VII. 1971.

中央区熊内橋通：1♂，8. IX. 1971.

灘区摩耶山町：1♂幼，12. III. 1991.

神戸市全域に棲息しているが数は減っている。黄昏時に群れ飛ぶ姿は、神戸市ではもはや過去のものとなったような感がある。

以上、採集記録は、12種であるが、西区扨谷町松本（湯出池）において、1992年8月22日にオオギンヤンマ *Anax guttatus* (BURMEISTER) を目撃している。これは飛来による偶産である。ネアカヨシヤンマ、サラサヤンマ以外については、すべて幼虫の棲息を確認しているため、神戸市に定着していることは間違いない。サラサヤンマの幼虫は特殊な環境に生活し、非常に発見しにくい。しかし、同じ場所で何度も♂の縄張りを観察し、産卵行動も見ていたので定着しているといつて良いであろう。ネアカヨシヤンマについては、公式に発表はされていないが、産卵行動の観察報告を受けている。本種は市内で場所を点々としながら、細々と発生を繰り返していると思われる。

<参考文献>

青木典司，1991a. 神戸市のトンボ相・分布追認調査. *gracile*, 45:27-32.

———，1991b. 神戸市のサナエトンボ調査. *gracile*, 46:13-18.

岩崎正道，1977. 神戸市兵庫区道場付近のトンボ相. *きべりはむし*, 5(1/2):1-7.

松本健嗣，1982. 神戸市周辺の蜻蛉目. *きべりはむし*, 10(2):1-10.

キンボシハネカクシ神戸市内で採集

(兵庫県甲虫相資料・268)

高橋寿郎

キンボシハネカクシ *Ocybus weisei* Harold, 1877. とにかく美しい大形のハネカクシである。筆

者はかつて養父郡氷の山々麓大久保で道路上を歩いている黄金色に輝いて見える本種に出会い驚き同時に喜んだものである。この標本は澤田高平博士に同定をお願いして同博士の手許に保管されている (lex., 2—Ⅶ—1956, T. Takahashi leg.) それ以後県下からの記録が意外と無い、筆者の知り得たものは多紀郡篠山町上籠坊 [仲田, 1982]。豊岡市内 [高橋, 1975] の2ヶ所位である。原色日本甲虫図鑑 (Ⅱ) (1985) によると平地、低山地にすむとあるからもっと記録があっても良いと思うのだが、1992年6月1日午前8時頃久方振りの快晴の太陽の照る神戸市烏原貯水池畔の道路上を美しい黄金色をしたキンボシハネカクシが歩いているのに出会った。実に36年振りの出会いであった。このような身近な所にいることがわかり大変喜んでいる。生きて歩いている時は黄金色に見えるのだが標本になるとあまり美しいとは思われない。ハネカクシの中では大形の種に属すると思われる (体長16.0—19.0mmとある)。注意して頂けるともっと産地が多くあるのではないだろうか。

クロオビツツハムシの新産地

(兵 庫 県 産 甲 虫 相 資 料 . 2 6 9)

高 橋 寿 郎

クロオビツツハムシ *Physosmaragdina nigrifrons* (Hope) はハッキリした色彩をしていて見ようによっては派手で美しいハムシであり夏のハムシとして、またススキを食草としているハムシでも知られている。本種の兵庫県での分布は筆者本誌上 (Vol. 19, No. 1, 1991) に報告しておいたが1992年7月29日蜂谷幸雄氏は神戸市西区寺谷のススキに多くいるのを目撃されカラー写真に撮影同時に採集をしてその内の1頭を御恵与頂いた。また同じ年の8月6, 7日に兵庫県生物学会夏期研修会が笠形山でありそこで本種が採集されている記録が真野育三氏によってされている (兵庫生物ニュース No. 9 : 47, 1992)。現在の所兵庫県下での記録で一番北の地点がこの笠形山になると考えられている。瀬戸内に面した海岸線に近い地域には広く分布していることがわかっているが北の方の記録が全く知られていない。このあたりの分布がどうなのか調べて見たいと思っている。末筆ながら写真並びに標本を御恵与下さった蜂谷幸雄氏に厚く御礼申しあげる。

県関係文献紹介

○宝塚の昆虫（Ⅰ）（Ⅱ）（Ⅲ）．宝塚市教育委員会刊．1992年2～3月

なかなかの力作である．宝塚に産する昆虫を一種づつ写真（標本写真）で示し簡単な解説．宝塚市内の産地データも加わっている．口絵にカラープレートが数葉ついている（生態写真及び標本写真）．

（Ⅰ）は半翅目（74-252）（番号は図示番号），チョウ（253-332）を主体にまとめられ数名の方による協力作成であるが東 正雄先生がまとめをしておられる（総ページ 217p. アート紙）．

（Ⅱ）は甲虫目（Ⅰ）でありナガヒラタムシ科からコメツキムシ科まで345種収録されている．執筆は数名の方々による分担執筆であるがまとめは小田中 健氏である（総ページ 168p.アート紙）．

（Ⅲ）は蛾類（Ⅰ）でコムリガ科からトラガ科まで451種収録．多くの協力者を得て東 正雄先生が全体の執筆をしておられる（総ページ 286p.アート紙）．

なにせ昆虫全部をまとめようというのであるから大変だと思われる．予定によるとこのあとⅣ（甲虫，2），Ⅴ（ガ類2），Ⅵ（ハエ，ハチ，カゲロウ等），Ⅶ（補遺）が平成5年度にかけて出版されるとか．全部が出来上がると非常に有益な文献となる．その完成を切に望んでいる．

本書入手について色々とお配慮頂いた協力執筆者のお一人新家 勝氏に厚く御礼申しあげる．

○ 佐用ライオンズクラブ刊．千種川の生態

〔水生生物調査〕第19集（平成3年秋）（1992）

相変わらず息きの長い生態調査報告書である．多くの地元小・中学生の協力の下にまとめられている．今回は表題にあるように平成3年秋実施された調査をまとめたものである．調査の千種川の生物相の変化がわかってきて大変参考になる．

○ 〔没後50周年記念〕郷土の偉大な博物学者・大上宇市〔新宮町文化財調査報告．17〕1992・Ⅲ刊．137p.

大上宇市氏は日本人による兵庫県下での始めて昆虫相について数多くの報文を発表された方で昆虫に関心のある者にとっては忘れることの出来ない方であるが地元とか今回の記念誌などによると植物とか貝類の業績が高く評価されているようである．かなり詳しい資料が収録されているのだが昆虫についてはあまり見るべき記録も無い（勿論標本も残っていないと思われるので——）．筆者も大上宇市氏が発表した昆虫に関する文献はほとんど所有しているが当時の状況からして何の種を

意味しているのか良くわからない表現が多くあったりして今一つ標本が残っていたらなァと残念に思っているものである。調査委員の方の内に昆虫に関心を持っておられる方がいないからと思われるが――。この点虫やにとっては淋しい文献である。それでもなかなか立派な報告書ではある。この文献を御教示下さり入手の御世話をしてお下さった相坂耕作氏に厚く御礼申しあげる。

尚昭和62年（1987）8月19日～9月6日兵庫県立西播磨文化会館において“大上宇市資料展”が開催されている。このことは兵庫生物 Vol. 9, No. 4, P.247-248（1988）にも紹介記事が出ているがこの資料展の説明資料を相坂耕作氏の御好意で頂いた。大上宇市氏の人となりとか主として植物関係の業績などの紹介がある。虫については何も紹介されていないが色々教えられる所が多い資料である。

○ 市縹・ジャコウアゲハ展。姫路市立科学館。1990。Ⅷ。

若干古い文献で申し訳ないが姫路市立科学館で平成2年8月4日～19日の間市縹制定1周年記念。市縹・ジャコウアゲハ展が開催されそれを記念して相坂耕作氏が中心になってジャコウアゲハに就いての色々な角度からの解説書が出版された。相坂氏の御好意でこの程1部御送りいただいた。なかなかよくまとまった文献である。ただこの展覧会に行った人は勿論入手されているだろうと思うが一般にはその存在さえも知らないといったもので大変残念である。なんとか一般の方にもPRして読んでもらえたらと思う。

○ こんちゅうノート 伊丹市昆虫館学習資料集1（1992。Ⅲ）

伊丹昆虫館で飼育している昆虫、展示している代表的な昆虫を写真をつけて解説、観察のポイントもまとめている。市立の小学校や幼稚園などに無料で配布しているとか。美しい表紙と共に楽しい本である。一般にも販売してくれる。尚同昆虫館では1990年“伊丹市昆虫館ワークガイド”と言うなかなか愉快的な本を出している。

○ クワガタムシ&カブトムシ。伊丹市昆虫館第3回特別展 「クワガタムシとカブトムシ」解説書
1992年7月18日～9月27日の間伊丹市昆虫館の第3回特別展として開催された「クワガタムシとカブトムシ」の同名解説書である。僅か10頁のものであるが写真をたくさん使った生態・形態を中心とした解説書でなかなか充実した内容になっている。

○ 因幡のむし No.27（Mar.1992）

鳥取大学昆虫同好会の会誌で年1回の発行のようである。本会の会員である永幡嘉之氏が同大学

に入学されて今回の27号は同氏の編集によるものである。氏は目下兵庫県の氷ノ山、扇の山、浜坂あたりを精力的にチョウとかカミキリムシを調べておられその結果の1部が本誌上に発表されている。例えば“但馬のカミキリムシ 91”では77種も記録されており（全部データ付）中には注目すべき珍しい種もふくまれている。蝶についても生地三木周辺の蝶とか但馬の蝶にもふれた貴重な記録があるので兵庫県関係の文献としてどうしても見逃せないものである。扇の山、氷ノ山とも自然破壊は大きいようである。今の内調べておいてもらいたい。多くの虫達が幻の虫になる恐れは充分あるから。

貴重な本誌を御恵送下さった永幡氏に厚く御礼申しあげる。

○ 人と自然 第1号（IV、1992）。（兵庫県立人と自然の博物館）

兵庫県立人と自然の博物館の研究紀要「人と自然」第1号が送られて来た（発行月日は1992年3月となっており今回のは設立準備室発行になっている。送られて来たのは8月7日）。81p. 総アートの綺麗な文献で6論文が収録されている。昆虫に関する論文も次の2篇が入っている。大谷剛博士による蜜蜂に関する論文（英文）。橋本佳明博士の蟻の下唇鬚についての論文（英文）。プロの研究論文集であるから格調の高い文献である。

○ 神戸新聞社。森への招待。ひょうご昆虫ウォッチング（のじぎく文庫。IX、1992）

（神戸新聞総合出版センター刊）

昭和63年（1988）6月24日から神戸新聞の紙上でスタートした昆虫スケッチ「森への招待」シリーズ。平成3年（1991）8月迄に発表になった103種の昆虫達を紹介されている。カラー写真とモノクロと両方はいっている。プロの写真屋の撮影であるからどれも良く出来ているただ写真撮影のデータが全く無いが入れてあった方が良いのではと考える。文は三木進氏が担当である（虫に詳しい方だから面白い記事になっている）。

県関係機関誌・連絡誌

(1992 . III - 1992 . IX)

Crude (大阪昆虫同好会々誌)

No. 36 (1992. III)

のせ (大阪昆虫同好会連絡誌)

Vol. 21, No. 1 ~ 8 (1992. I ~ VII)

兵庫産水生物

No. 41 (1992. IV)

宝塚の自然

No. 6 (1992. III)

IRATSUME (但馬むしの会々誌)

No. 15・16 (1992. V)

姫昆サロンニュース

No. 84 (VI. 1992) No. 85 (VII. 1992) No. 86 (VIII. 1992) No. 87 (IX. 1992)

n/k通信

No. 10 (VI. 1992)

昆虫ずかん (但馬むしの会連絡誌)

No. 33 (VII. 1992)

自然とともに (兵庫県環境管理課)

No. 18 (VII. 1992)

兵庫生物ニュース (兵庫県生物学会)

No. 9 (IX. 1992)

ハーモニ (人と自然の博物館ニュース)

創刊号 (IX. 1992) 自然系博物館準備室ニュースを引きついで今回からこちらの表題で発行されることになった。

交 換 誌

すかしば No. 36 (Dec. 1991) (山陰むしの会)

蝶研出版 蝶類年鑑 - 1991 - (1992)

蝶研出版 蝶類年鑑 - 1989 - (1992)

富山市科学センター研究報告第15号 (1992)

神奈川自然誌資料 No. 13 (Mar. 1992) (神奈川県立博物館)

人と自然 No. 1 (Ⅲ. 1992) (兵庫県立人と自然の博物館)

会費納入についてのお願い

1993年度会費 3000円

出費多端の折、恐縮に存じますが、会費納入を年内に同封振替用紙御利用の上、お願い申し上げます。

編 集 後 記

- 本年度の結果はいかがでしたでしょうか。編集子もお陰さまで県下4ヶ所で13回の調査。採集をする機会に恵まれてまして新知見もあり喜んでます。
- 本誌もやっと発行することが出来ました。今回は貴重な原稿を頂くことが出来てまづまづの出来になったと思いますが如何でしょうか。前号で若干の手違いがありましたので今回いささか早目に印刷に廻しました。それでも今一つで申し訳御座いません。雑誌の編集・出版の仕事も年々負担になり始めました。
- 毎号申しあげておりますが短報で結構です原稿御送り下さい。次回は1993年5月に発行を予定しております。原稿は3月中旬迄にお願い出来ればと思います。
- 来年度の会費の方も年内納入をお願い出来ればと思います。

(T)

きべりはむし 第20巻第2号

1992年11月25日発行

発行：兵庫昆虫同好会

〒652 神戸市兵庫区氷室町1丁目44 高橋寿郎方

振替 神戸7-26646

印刷：(株) 文 尚 堂

〒652 神戸市兵庫区下沢通3丁目4-11
